

鳥取発の新品種 早生の甘カキ‘輝太郎’の育成

園芸試験場

1 背景と目的

本県のカキは‘西条’‘富有’‘花御所’の三品種を中心に、約 160ha で栽培されているが、近年の販売価格の低迷により、生産現場からは、早生の‘西条’よりさらに早く収穫でき、有利販売が期待できる優良系統の育成が求められていた。

そこで、平成 6 年より早生の甘カキの育成を目的に、交雑育種による新系統の育成に取り組み、数多くの系統の中から 9 月下旬から収穫でき、糖度が高く大玉の早生の甘カキ‘輝太郎’（きたろう）を育成した。



2 成果の概要

(1) 育成経過

平成 6 年より、新品種を用いた交雑育種を開始し、63 系統の種子を得た。平成 13 年より結実したものから果実調査を開始し、平成 18 年には、その中から有望な系統を 4 系統に絞り込んだ。平成 19 年には、最有望系統として‘輝太郎’（♀：‘宗田早生’×♂：‘甘秋’）を選抜した。平成 21 年に品種登録を申請し、平成 22 年 3 月に品種登録となった。

(2) ‘輝太郎’の特性

果 重：約 300g

糖 度：約 17%（同時期に収穫される‘早秋’は 14.0%）

貯 蔵 性：‘早秋’と同程度の 14 日程度

生理障害等：果頂裂果、ヘタスキはほとんど見られない。

無核果や種子数の少ない果実で果芯部の空洞や空洞部の黒変が散見されるため、授粉樹の混植が必要である。

幼木や樹勢の強い樹では、8 月に生理落果が見られる。

病 害 虫：枝幹害虫にやや弱い。

9 月下旬から収穫できるこれまでにない高糖度の甘カキであり、本県の主要品種の‘西条’、‘富有’、‘花御所’を組み合わせることにより、カキのリレー出荷が可能である。

第 1 表 輝太郎と他品種の果実特性と収穫期の比較（平年値：河原試験地）

品種名	果重(g)	果色(オレンジC.C)		糖度(%)	日持ち(日)	着色始め	収穫始め	収穫最盛
		果頂	ヘタ部					
花御所	269.2	7.8	7.7	16.9	20.8	10/7	11/28	12/7
富有	298.8	10.7	9.8	17.3	25.8	10/1	11/12	11/23
太秋	382.7	8.0	3.3	17.8	22.4	9/2	10/17	10/31
宗田早生	390.4	10.1	7.5	18.9	21.6	9/8	10/15	10/31
早秋	260.3	9.9	5.4	14.0	15.9	8/22	9/25	10/2
西村早生	205.7	8.1	4.5	15.4	21.6	8/20	9/19	9/29
輝太郎	334.4	9.6	5.7	16.6	13.7	8/27	9/22	10/3

3 成果の活用

平成 21 年から苗木が販売され、4 年間で約 8,000 本の苗木が植栽された。

平成 23 年に西部農協で初出荷され、平成 24 年には、県内全域で 1,998kg が市場出荷された。平均単価が kg 当たり 902 円と高値で取引されたことから、生産者の関心が高まっている。

第 2 表 苗木の植栽状況（全農とっとりより）

平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	合 計
約 1,700 本	約 2,800 本	約 1,400 本	約 2,100 本	約 8,000 本

4 残された課題

輝太郎の栽培上の問題点として、幼木等の樹勢の強い樹での後期の生理落果と種子の少ない果実の果芯部の空洞の発生があげられる。両者とも種子数を増やすことで軽減できることが分かっているが、具体的な対策として現状では人工受粉しかなく、効率的で取り組みやすい軽減技術の開発が必要である。